

今回の支援だよりでは、夏季休業中に本校で実施された研修会やワークショップについて紹介します。

【講演会】

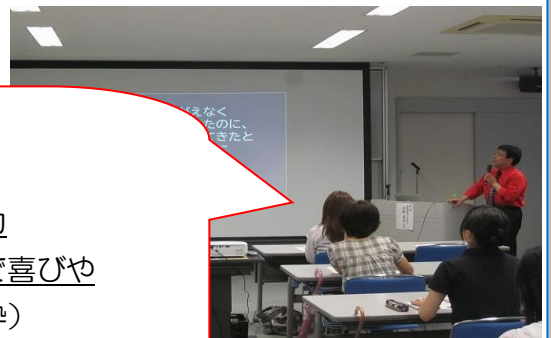
テーマ **見えにくさのある子の進学・就労に向けて、今、何をすべきか
ー ICT / AT機器の効果的な活用等ー**

講師 **中野泰志氏（慶應義塾大学 教授）**

概要 現在、法制度が大きく変化し、障害者の合理的配慮が求められている。合理的配慮を受けるためには、本人からの意思表示が前提となる。そのためには、自分自身を知り（自分の良さ、できること、できないこと等）自分を大切に思う気持ちが育っていることが必要である。本人が利用できる技術（ICT / AT機器等）も進歩している。例えば、電子教科書は、拡大や検索が自由にでき専用アプリも開発されている。iPad では、様々な教材・教員アプリがある。有効に活用してほしい。

★ 子供たちは持っていますか？

- 自分を大切に思うことができる力
- 自分のできないことを知り、必要な依頼ができる力
- 自分の果たすべき役割を知り、役割を果たすことで喜びや生き甲斐を感じる力 （資料より 一部抜粋）



【ワークショップ】

保護者等が講演会に参加している間、児童生徒はiPadの動画や写真等を使った説明や支援を受けながら、ワークショップ「白玉だんご作り」に参加した。



iPadで拡大すると目盛がよく見えるね！

★視覚障害を対象に教科書・書籍を提供してくれるサービスは以下のようなところがあります。

- 日本障害者リハビリテーション協会
- 音声教材BEAM
- 東京大学先端大：AccessReading
- サピエ図書館



【講演会】

テーマ **弱視児の視知覚特性に応じた教育的支援**

講師 **小林秀之氏(筑波大学 准教授)**

概要 弱視児の見え方は様々であり、外見だけでは判断できない。教育的支援に当たっては、弱視児の見え方に応じた教育的配慮(触覚教材・拡大教材・視覚補助具の有効活用と指導上の工夫)を行い、体験学習を通して言葉だけの理解にならないようにする留意する。



弱視(視力0.03未満)の世界を想像したことが、ありますか?「視力があるから(眼鏡をかけているから)見えるのでは?」「自分で動いているから大丈夫」と思われがちですが、様々な困難があるのです。盲学校では、弱視体験ができます。希望の方は、盲学校へお問い合わせ下さい。

【研修及び実習】

テーマ **歩行指導の基本**

講師 **日高菜穂子氏(石川県視覚障害者情報文化センター 歩行指導員)**

概要 初日は、視覚障害者の歩行を支援する(「手引き歩行」)際の基本的知識や技術について研修を受けた。2日目、3日目は受講生自身がアイマスクを着用して、手引き歩行や白杖歩行の体験をし、その指導法を学んだ。



校内で白杖歩行を練習した後、学校周辺を歩く体験をしました

「石川県産業教育フェア」(ふし大会)のお知らせ

- 日 時：10月23日(金) 24日(土)
- 場 所：石川県地場産業振興センター本館
- 内 容：県内の高等学校による特色ある授業や行事の紹介、農産物の販売、実習体験等があります。盲学校も参加し、学校紹介や理療科によるあんま・マッサージを行います。(あんま・マッサージは24日のみ)関心のある方、どうぞお越し下さい。

